

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を土台に、地域生活を支え合うため、地域密着型サービスの理念を「和っぶるの夢」として、全職員が地域との輪を大切にしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に全職員で唱和し、念頭において共有しあい「今望まれるケア」の実践に向けて取り組んでいる。	○ 理念についての反省や話し合いをして、よりよい実践につながるようにしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	「和っぶる通信」はプライバシーに配慮しながら地域へ、「和み便り」はご家族様向けの広報誌として、定期的に配布し、認知症やホームでの生活を理解してもらえよう工夫した内容を盛り込んでいる	○ 近所の商店や町内会集会所に理念を掲載したオリジナルポスターを掲示させていただき、浸透に取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩では気軽に挨拶を交わし顔なじみとなっている。隣近所からは、野菜や生花、彼岸には団子の差し入れがあったり庭の芝刈りや、畑の手入れ、冬には除雪をしてくださるなど近所付き合いが絶えない。地元のお祭りや小学校、高校のイベントにも招待され参加したり、子供達をホームへ招き交流を深めるなど幅広い世代の方々と交流することが出来ている。福祉体験やボランティアも受け入れ認知症への理解を求めたり、春秋には清掃活動に取り組み地元の方々への感謝を示す機会としている。	○ 小学校のマラソン大会に出掛け声援を送ると「とても頑張れた」と喜んでいただき学校新聞にも取り上げられるなど小さな事でも地域貢献出来る事を実感した。又、子供達との交流は入居者にとって大きな喜びや感動があり涙ぐむ方もおられる。今後も地域の方々との交流を大切にしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には全職員が全項目を見直し、ケアの振り返りをする機会であると受け止め計画的に取り組んでいる。評価後には話し合いをし、現状に満足することなく、ケアの向上に活かされている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームや認知症の理解をしていただく為、テーマを決めて意見交換をしている。地域の方々の目線での発言が活発になされ、サービス向上に活かされている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、ほぼ出席していただき市の福祉情報や状況を伺うことが出来る。疑問や困難事例時には的確なアドバイスが受けられ、協議している。又、会議での報告書、広報誌、外部評価等の提出、報告を行っている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修へ参加し制度の必要性や理解に努めている。現在、日常生活自立支援制度を活用されている方がおり、社協生活支援員と連携して支援している。	○ 今後、権利擁護や成年後見人制度への移行も考えられる為、専門の支援員との連携を密にし必要性があるか検討していきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止の徹底を理解し、スタッフ会議や勉強会に話し合いをしている。特にスピーチロックとされる虐待においては、細心の注意をし、経営者、管理者からも日々のケア方法についても意識するよう声掛けしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、退居時には運営者、管理者が必ず立会い十分な説明を行い、不安や誤解のないよう配慮し、同意を得ている。退居時には退居先への情報提供を行い支援している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の状況を把握した上で、入居者の言動から察知するよう気づきを大切にしている。出された意見や苦情があればすぐ検討し速やかに対応している。	○ 少しの変化をも、毎朝の申し送り時に伝達し、信頼関係を築けるようなケアに取り組んでいきたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の手紙や写真にて暮らしぶりや受診状況を報告している。金銭管理についても出納帳写しに領収書を添付し、報告している。緊急時にはその都度電話等で行い、報告を怠らないようにしている。	○ 今年度より家族向けの「和み便り」を発行し行事やホーム全体の報告が出来るようにしている。お手紙は家族からも“毎月楽しみにしている”と言われており、信頼に結びついている。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、家族の意見や要望をさりげなく聞き出せるよう心がけ、また相談しやすい雰囲気づくりを行っている。運営者や管理者も定期的連絡等を積極的に行い、小さな事でも意見としてとらえ、日々のケアに反映させている。	○ 意見、要望ノートへの記録により改善取り組み状況がわかるようになっている。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や毎月の業務の中でも職員の意見等を聞く働きかけをしており、意見のある場合でもすぐに検討し、改善するよう取り組んでいる。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急時には迅速な対応が出来るよう勤務調整をし、入居者の状況や暮らしに合わせたローテーションを組んでいる。又、運営者や管理者からも無理な勤務体制となっていないか随時、聞き取りをしたり、私生活も充実するよう毎月の休みの希望は叶えるようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者や家族との信頼関係を重要と考えており、スタッフの異動はほとんどなく馴染みの関係を維持し、安定した環境を保っている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは勤務調整を図り出来るだけ参加し資料や報告書で全職員に周知している。内容によっては内部での勉強会も開き、個々の育成、チームのサービスの質の向上にむけ取り組んでいる。	○	毎月の介護雑誌や情報誌を購読し、内部勉強会で取り上げている。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の某グループホームとの交流会が恒例となっており、運動会や昼食会で交流している。相互の職員で企画運営し活動を通じて、意見交換も出来、良好な関係となり勉強会等へも参加させていただいている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員の疲労やストレス悩みを常日頃から気軽に話せる雰囲気があり、何事も一人で抱え込まないよう要所にて働きかけている。全員が女性で、ほぼ家庭を持っており私生活に負担とならないよう、親睦会は最小限におさえ、その代わり時々差し入れをしてくださったり、個々の誕生日にはケーキで祝い盛り上げて下さっている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は個々のグループホームに対する熱意や日々の努力、活躍の場を認めており、必要に応じた適切な助言をしたり、年1回の健康診断を実施するなど、心身ともに生き生きと働ける職場作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に本人や家族と面談をしており、さり気ない会話から思いや希望を聴くように努め、コミュニケーションを大切にしている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な聞き取りと話し合いをし入所を含め、必要とされる支援が受けられるよう、担当ケアマネや他の関係機関と連携して、本人の希望に添った選択が出来るよう対応している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族には入所前に見学していただき、家族からの生活歴やアセスメントを基に事前に全職員が情報を共有した上で、ケアにあたっている。	○ 入所当日には本人の嗜好を取り入れた“歓迎メニュー”で迎え、座る位置の工夫や、自己紹介の出来る場面を作り出し、徐々に馴染めるよう配慮している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の有する能力に応じて、一緒に家事をしたり趣味を楽しんだり衣食住を共に過ごす中で喜怒哀楽を共感し、頼ったり頼られたりし、“支えあい、助け合い、寄り添い合う”関係を大切にしている。	○ ホームの畑の手入れや、干し柿作り、山菜の食べ方など昔ながらの方法を入居者に教わることも沢山あり、職員も人生の先輩として敬い、感謝の気持ちで接し、「ありがとう」の言葉をかけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族へは面会時や毎月の手紙を通じて、本人の状況を把握していただき、一緒に笑ったり悩んだりしながら、日々の暮らしを支えている。バス遠足やもちつき会等行事の参加も働きかけ、家族と一緒に過ごす時間を持てるよう工夫している。	○	・もちつき会にて日々の生活をビデオ撮影したものを上映すると「いい顔している」「とても安心した」「感激した」など大変好評であった。又、職員に対して労をねぎらう言葉もいただき、家族との信頼関係に結びついた。・家族の介護不安にも電話で相談にのるなど密にしている。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族とのこれまでの関係をしっかり把握し、無理のない範囲での支援や面会の働きかけをし、より良い家族関係が継続出来るよう支援している。居室へは家族との写真を飾るなど工夫をしている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所を機に古い友人や付き合いの途絶えていた親戚の面会があるなど、良好な関係を再開している。外出支援にて自宅へ出掛けたり、なじみのスーパーへ買い物に出掛けるなど個々の支援に努めている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の生活歴や性格、日々の生活状況を考え、座る位置の工夫をし、お互いの関わりがスムーズに行くよう支援している。入居者同士で誘い合い散歩に出掛けたり、一緒に軽作業を行うなど、助け合う場面が良く見られ、職員もさり気ないフォローに努めている。	○	・世話好きな方もおり、行き過ぎた行動がトラブルを生じないように、職員は優しく見守り、時には不愉快な気持ちにならないような声掛けで対応している。個々の居室へ行き来がある時は、お茶を出すなどさり気ない気配りで見守っている。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も転居先を訪問し、「和つぷる通信」を届けたり、必要に応じていつでも相談にのることを説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の立場に立ち、思いや希望を把握する為、日々の何気ない生活から、気づいたことを「気づきノート」に書き留め、より良いケアの為、活用している。	○ 日常会話や表情など細かい部分においても気づきとし、チーム全体で検討出来るよう活かされ、アイデアや具体策まで盛り込み取組んでいる。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはセンター方式を活用し、情報収集を行っている。親族の面会や、本人と生活する中で少しずつ情報が増えていくことも多く、会話等からさり気なくこれまでの事を聞き出し、情報を得るよう努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居時には24時間生活リズムシートを記入し、早い段階で本人の生活リズムの把握に努めている。又、個々の出来る事、出来ない事の現状を全職員が周知し、生活に活かされるよう声掛けしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の力量に合わせて、本人の意向を聞きだしたり職員が共に生活した上での気づきを基にケア会議では、問題点ばかりに着目せず、本人の良いところ探しをし、意見やアイデアをまとめて暫定プランを作成している。作成後に家族に意見要望を再確認し最終プランにしている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿って支援が出来ているか、月1回のモニタリングを行い評価して、援助内容の検討を行っている。大きな状態変化が生じた場合は、家族を交えて、担当者会議を開き、現状に即した見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動や生活状況をわかりやすく色別し、具体的に個別ファイルに記載している。本人のそのままの会話や表情、ケアの対応を記録し、状況の把握や情報の共有、計画の見直しに、活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の移送や買い物への支援の他、自宅へ必要な物を取りに行ったり、行きつけの美容院への外出支援など、本人や家族の要望に応じ、柔軟な支援を行っている。	○	入居者には一人暮らしの方もあり、空き家になっている自宅の様子を一緒に見に行ったり、飼っていた愛犬に会いに行くなどする事で、不安を取り除き、穏やかな生活となることを全職員で理解し、個々のニーズに合わせて、取組んでいる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の学校より、ボランティアの派遣や、交流会が定着している。入居者が安心して暮らす為、災害時や緊急時には協力が得られるよう町内会長さんや地域の方へ働きかけている。ホームの季刊誌の配布時にも、各町内会長さんや班長さんが快く引き受け、協力してくださっている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他のケアマネや各機関との連携を図り、本人の意向に合わせた利用が出来るよう支援している。市社協より、車椅子の寄贈を受けたり、必要があれば個々の貸車椅子の事業を活用している。	○	生活保護を受けられ、生活自立支援を利用している方の第三者的相談窓口として、市社協の相談員が訪問してくださったり、電話にて連絡調整を定期的に行っている。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事例困難時には包括センターへ相談し、解決にむけたアドバイスをいただき、入居者の安定した生活を維持するため、協力体制を整えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を尊重し、入居前からの継続した定期受診が出来るよう支援している。24時間対応可能な協力医療機関を確保しており、緊急時の診察や相談が受けられる体制がある。受診結果は、電話や手紙にて家族へ報告している。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者によっては専門医の診察を受けている方もあるが、専門としない医療機関でもかかりつけ医として、認知症状に対する治療や対処方法についての、助言をいただいている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員3名を配置しており、入居者の健康状態の観察や服薬の注意など、他の介護職員への指導や相談が出来る体制にある。又、夜間の緊急時にもすぐ駆けつける協力体制が整っている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関への情報提供を行い、回復状況の把握のため、家族や病院の経過報告を受けて、早期退院にむけて話し合いをしている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時には重度化した場合の本人や家族の意向を確認しており、中には特養申し込みをしている方もある。状態変化時には医師の助言を受けながら、家族と話し合いをし、確認している。	○	看取りやターミナルケアについての知識を深めるため研修会に参加し、スタッフ会議でも勉強会を開き今後の方向性について、話し合いをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期には対応していない。	○	看取りを円滑に行うための要件や環境を整えたり、現状におけるホームの力量を見極め、全職員で統一して取り組めるまで、勉強会や検討会を繰り返し行なって行きたい。
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と十分な話し合いをし、同意を得ると共に必要に応じて、本人の生活状況やケア状況などの情報提供を行い、移行先でも安心した生活が継続されるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々を尊重し、羞恥心に配慮した声掛けやさり気ないサポートを心がけている。又、個人情報や書類は共同生活の場で、目に触れないよう工夫している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常会話から、本人の思いを汲み取るようにしている。一人ひとりに合わせたペースで対応し、やりたい事や食べたい物、行きたい所など選んだり、自己決定したりする場面作りをしている。	○	自己決定を求めることで「どうしていいかわからない」など混乱する方もあり、関わる中での状況を基に職員が促すことで、不安なく過される場合もある。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを職員は把握しており、ホールや居室で過される時も自分らしく自由に過ごしていただいている。	○	「山さ行って来る」など昔からの習慣となっている行動にもさり気なく付き添ったり、帰宅願望のある時にはゆっくり傾聴し、外を一緒に歩くなど、今望んでいる事にすぐ対応出来るよう、職員間で声を掛け合い支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴時や外出時には自分で好みの服を選んだり、髪の手入れや化粧をするなど、おしゃれをする場面を作り出している。ホームでの出張理容サービスを利用されたり、家族やホームの外出支援で馴染みの美容院へ出掛けるなど、個々の希望に応じている。	
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が会話をしながら一緒に食事を摂っている。食べこぼしや介助の必要な方の座席や調理法(きざみ、トロミ)を工夫し、さり気なくサポートしたり、一人ひとりの好き嫌いを把握し、別メニューの提供もあり、気遣いなく食事が出来るよう支援している。調理の準備や後片付けも入居者同士で仲良く行なっている。	○ 個々の力量に合わせて、役割を持っていただき入居者同士の良い関係を築いていきたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	誕生会や行事等では、好みのお酒や旬の食材、好みの物を提供し、喜んでいただけるよう支援している。買い物支援により栄養バランスに配慮しながら、食べたい物を選び提供出来るよう支援している。	○ 献立メニューにこだわらず、本人のこれまでの食生活に合わせた別メニューでの提供をしている方もある。夜食を楽しみに夜を過ぎられる方もあり、家族と相談しながら、買い物支援にて提供している。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄状況を24時間記録し、習慣やパターンの把握をして、事前誘導したり、排泄の確認や失禁時にも周囲に気づかれないよう、さり気ない声掛けや対応をしている。	○ 会話困難で全介助を要される方でも、小さな意思表示を察し、職員二人体制でトイレでの排泄を実現している。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後はゆっくり休息したい方が多く、午前入浴となっている。本人のペースに合わせてゆったりとした時間を提供している。入浴拒否時や体調不良時は、時間や日程をずらしたり、シャワー浴にするなど無理のない柔軟な対応をしている。	○ 入浴をしない日でも、毎日足浴をし、とても喜ばれている。水虫の予防や浮腫などの観察ができています。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握しており、日中の休息は個々に合わせた空間でゆったりと過されている。夜間眠れない方がいれば、本を見たり、談話をしたり一緒に過し対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴をヒントに畑仕事や縫い物、編み物といった持っている力を引き出し、自信を持っていただいている。日常生活の中で食事の支度や片付け、モップ掛け等、役割を持ったり、趣味活動やレクリエーション、花木の手入れや、毎日の散歩など、生き生きとした生活の支援をしている。	
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、本人の力量に合った額を持っていただき、ヤクルトの訪問販売を利用したり、日常の買い物等で欲しい物を選び支払うといった機会には、さり気なく見守り支援している。	○ 高校の文化祭やドライブ等の外出時にもアイスや串もちなど好きな物を買ひ、店の方もやりとり出来るよう見守っている。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、ほぼ毎日散歩へ出掛けている。入居者の身体状況に合わせて、散歩コースを変え、学校やお寺、きれいな花壇、田んぼなど、楽しみや気分転換を味わえるよう支援している。	○ 買い物に行ったり、郵便局ではがきや切手を買ひ、お手紙を出したりと、気遣いせず日常的に出掛けられるよう働きかけている。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者からの要望で、自宅へ行ったり、入居前からの行きつけの美容院へ出掛けたりしている。毎年、家族参加のバス遠足を計画して遠出したり、ドライブにて地元の名所を巡ったりする機会をつくり支援している。	○ 今年はおいらせ町あぐりの里へ出掛け、熱帯植物を見たり、足湯をしてのんびり過される。イオン下田では食堂に入り、個々の選んだ定食をたいらげ、とても満足されていました。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的にいつでも家族へ電話をかけられるようにしており、会話内容を他者に知られないよう、プライバシーに配慮し支援している。又、手紙を書いてポストへ出しに行かれたり、家族にお手紙を書き、面会時に直接渡せるよう支援している。	


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の目安はあるが、家族や馴染みの方には仕事帰りやご家族の都合のよい時間帯にいつでも気軽に来ていただけるよう声掛けしている。来訪時には温かい雰囲気づくりを心がけ、居室にてゆっくり過せるよう、お茶を出したり、写真を見てもらったりし、工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議にて勉強会を行い「身体拘束は行わない」事の再確認をし、拘束をしないケアに努めている。		
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関前は、交通量も多い事から、事故防止としてスイッチで開くようになっている事を家族へ説明し、同意を得ている。入居者が集まるホールからは、庭へ洗濯干しに出たり、鉢植えの手入れをご自分で行えるよう鍵をかけず、自由に出入りしていただいている。	○	自ら「外へ行きたい」など言葉で伝えられない方でも行動から察知して、さり気なく靴を出してあげたり、ドアを開けてみるなど、自然と外へ出られるよう取り組んでいる。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員は入居者の所在や状況を確認しながら、見守りを行っている。居室にて一人で過されている時もプライバシーに配慮し、安全確認している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の物品の刃物（針、ハサミ）等は、本人の力量に応じて、家族と相談してお預かりする場合もあるが、本人の希望時にはいつでも使えるよう、声掛けしている。ホーム物品でも、刃物や誤飲に繋がる様な物品はあらかじめ、保管施錠の徹底をしている。	○	現在自己所有出来ている方もおり、家族と相談の上本人へお任せしているが、本人の状態に合わなくなった場合はすぐに再検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの現在の状況に応じて、歩行時や食事中も見守りや付き添いをしている。対策マニュアルがあり全職員で対応出来るよう事故防止に努めている。万が一、事故発生時にはヒヤリも含め報告書を作成し再発防止に努め検討している。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網での連絡方法の訓練を実施し問題点に気づいた時はその都度検討、見直しを行い備えている。看護師3名を中心に初期対応や応急手当方法について、学び合い確認している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	概ね月1回の避難訓練を実施し、緊急事態に備えて、様々な想定で取り組み、結果反省を基に、体制づくりの強化をしている。年1回は消防訓練を実施し、救助から放水まで、地域の方々の協力が得られるよう働きかけを行い、一緒に訓練に参加していただいている。	○	入居者も職員も動きが身につくよう繰り返し訓練している。不安の大きな夜間時も、連絡から駆けつけまでのタイムを計るなど、訓練を重ね身につけて行きたい。
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの状態変化に応じ起こり得るリスクについて随時見直しを行い、家族とも話し合いを設けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日健康チェックを行い、血圧測定や検温、食事摂取量、表情や行動等を確認し記録している。個々の体調変化や、異変の発見に努め、異変の兆候が合った場合は、看護師へ報告確認しすぐ対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容を把握するよう努めており、薬の変更時は申し送りでも全職員に周知している。薬は職員の取り扱いで、分別の工夫をし、誤薬ミスのないよう、職員同士で声を掛け合い、本人と名前、薬袋を確認した上で手渡しし、飲み込むまで目で確認するよう強化している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便状況を記録し、排泄パターンを把握している。特に便秘症の方へは、何が効果的か色々な乳製品を試したり、十分な水分摂取が出来るよう工夫したり、便秘予防に努めている。時には主治医へ相談し、薬の服用をしている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きを大切にし、個々の能力に応じて誘導や声掛けを行っている。職員に歯科勤務経験者が2名おり、定期的にブラッシング指導や、口腔内の点検を行っている。簡単な義歯の調整等は地元の歯科医による往診が受けられる体制がある。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を毎日記録している。肉、魚、野菜等、食材のバランスを考え、一日の食材種類を多く摂るよう工夫している。	○	むせのある方へはトロミをつけた食事や水分を提供し、一人ひとりの状態に合わせて食べやすいように、ミキサー食や刻み食を提供している。
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対応マニュアルを作成し、除菌、消毒等予防対策に努めている。うがいや手洗い消毒は、職員入居者共に徹底したり、面会人へも予防対策の表示をし、働きかけている。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・嘔吐物や便付着など汚物処理は、手袋、マスク、予防衣着用を実行している。 ・入居者、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。 ・汚染物の消毒の分別をし、洗濯も専用の洗濯機を使用している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に調理器具や冷蔵庫の掃除、台所水まわりの清潔、衛生を保つよう行っている。布巾やエプロンの使いまわしはせず、毎食後消毒している。食材も無駄なく使い切り鮮度にこだわって提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気軽に出入り出来るように、表玄関は常に開放している。色とりどりの花や緑があり、季節感あふれる装飾で演出している。入居者が掃き掃除をして下さり、いつも綺麗にしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテレビやソファがあり、和室へはこたつがあるなど季節に合わせて空間を作り、家庭と変わらない雰囲気作りを大切にしている。入居者が集まった時、一緒に創った季節の創作物や入居者手作りの布製カレンダーがあり、目で見て楽しめるよう工夫されている。天窓があり明るく開放感にあふれている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールへは自然に集まり、お茶を飲みながら談話したり、読書や縫い物等、自分らしく過せるよう、自分の居場所が確保出来るよう支援している。		
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前には個性豊かな自作の表札があり、居室の間違いが無いよう工夫している。本人が使いやすいように家具等を配置し、思い出の品や写真を飾り、観葉植物の世話をするなど、自分の居場所と認識し、落ち着いた暮らしが出来るよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定刻に湿度・温度のチェックをし、入居者の発汗の様子や冷え等に注意して調整している。空気清浄機や加湿器の設置をし、換気には十分配慮するなど快適な生活を送れるよう心がけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで要所に手すりがあり、歩行運動をしたり、車椅子も自走出来るよう障害物のない安全で安心な造りを心がけている。一人でも作業が行えるよう椅子やテーブルの高さを変えて個々に合わせた工夫をしている。	○	下肢筋力の維持に床からの立ち上がりに滑らないようにしたり、立ち仕事も個々の高さに合った台を使うように工夫している。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所がわかるように目印をつけたり、馴染みとなり見慣れた環境を整えて、混乱を招くことのないよう支援している。混乱がみられる時には、問題に対して検討改善し、入居者へはそばに寄り添いゆったりとした対応をし、不安解消につなげている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	地域の子ども達との交流の場としたり、広場は伝統芸能沢田鶏舞を披露する場として活用され、入居者も一緒に楽しむことができている。天気の良い日は、庭で食事会やお茶会をしたり、ホーム畑で芋掘りや草取りをして、季節を感じながら、生き生きと活動されている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

* 気づきケアでチーム一丸となり、入居者様の暮らしを支えている。

* どんどん外へ出て、自然や地域にふれ、ありのままの姿を見ていただき、グループホームの理解につなげて行きたい。